

青山学院緑岡幼稚園創立80周年記念礼拝・記念会開催

3月22日(木) 11時30分より、本部礼拝堂(チャールズ・オスカー・ミラー記念礼拝堂)において、卒園生(緑岡幼稚園同窓会)の皆様や、いとすぎの会(幼稚園同窓会)の歴代会長の皆様、歴代の幼稚園主事の先生方や学院関係者が出席し、青山学院緑岡幼稚園創立80周年記念礼拝が執り行われました。



司式は、5回生の藤村和義氏(渋谷教会牧師)が務められ、緑岡幼稚園で毎朝歌われた讃美歌454番「うるわしきあさも」を賛美した後、聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章10〜14節」が朗読され、祈祷をささげた後、1回生の藤井多恵子氏の独唱「ちいさなひとびとの」



とりたちは」が披露されました。

そして、青山学院名誉院長である深町正信先生より「いかなる場合にも対処する秘訣」と題した説教があり、使徒パウロの話を引用し「主イエスを信じることで、どのような境遇にあつても自由に力強く生きる事ができるのです。緑岡幼稚園の卒園生の皆様は、戦前・戦中・戦後と様々な人生を歩んでいらつしやうたことでしよう。神様に導かれた人生でありました。神に感謝をささげましょう」と述べられました。

その後、一同で讃美歌492番「かみのめぐみはいとたかし」、頌栄541番「ちちみこみたまの」を

賛美し、深町先生による祝福をもって記念礼拝は終了しました。

記念礼拝終了後、梅津順一院長・園長より挨拶があり、「1937年に創立され、戦争の影響で1944年に中断を余儀なくされましたが、創立にあつた時の当時の阿部義宗院長、米山梅吉夫妻の教育に対する熱意に感銘を受けます。神様への信仰がこれからの青山学院幼稚園を支え続けることでしよう」と述べられました。また、2回生の飯塚寛緑岡幼稚園同窓会会長からも、緑岡幼稚園と同窓会の歴史に触れた挨拶があり、同会を可能な限り存続し、歴史をつなぐ努力をしていきたい旨が述べられました。

間島記念館前での記念撮影の後、会場をアイビーホールに移し、記念会が催されました。

飯塚氏の開会挨拶に始まり、来賓が紹介され、創立80周年を記念して作られ2月に幼稚園に設置されたパイオルガンの紹介がありました。

そして1回生の大里きみこ氏による祈禱が捧げられ、相川和宏校友会会長の乾杯の挨拶の後、食事が行われ、歓談のひとつときを持ちました。



青山学院緑岡幼稚園

1937(昭和12)年設立。当時の情勢からキリスト教主義学校である青山学院が認可を受けることは困難だったため、青山学院財団とは別に「青山学院小学財団」を設立し、経営にあたりました。緑岡幼稚園設立にあつたのは、校友である米山梅吉・春夫妻の私財をなげうった全面的な財政援助により実現、同時に緑岡小学校も設立しました。しかし空襲が激しくなってきた1944(昭和19)年、幼稚園閉鎖命令がくだり、閉園を余儀なくされました。そして1945(昭和20)年の空襲により、園舎は焼失しました。1961(昭和36)年、青山学院幼稚園が開園し、緑岡幼稚園のキリスト教保育が復活しました。